

会 議 録

会議の名称	茨木市建設事業評価委員会
開催日時	平成28年2月12日(金) 午後5時30分開会・午後7時15分閉会
開催場所	市役所南館8階 会議室
議長	【委員長】澤木 昌典(大阪大学大学院教授)
出席者	<p>【委員】(50音順)</p> <p>猪井 博登(大阪大学大学院准教授)</p> <p>木村 正文(茨木商工会議所専務理事)</p> <p>式 王美子(立命館大学政策科学科准教授)</p> <p>延原 理恵(京都教育大学准教授)</p> <p>【市】</p> <p>大塚 康央(副市長)</p> <p>鎌谷 博人(都市整備部長)</p> <p>上田 利幸(建設部長)</p> <p>上田 雄彦(都市整備部次長兼北部整備推進課長)</p> <p>岸田 秀夫(北部整備推進課主幹)</p> <p>谷本 将一(北部整備推進課主査)</p> <p>澤田 晴光(建設部次長兼建設管理課長)</p> <p>藤田 憲文(道路交通課長)</p> <p>谷田 明夫(道路交通課主幹)</p>
欠席者	なし
事務局職員	企画財政部政策企画課長、政策企画課行政経営係長1、係員1
開催形態	公開(傍聴者0人)
議題(案件)	<p>(1) 「千提寺地区都市再生整備計画」の事後評価について</p> <p>(2) 「JR 茨木駅南地区における大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出」の事後評価について</p>
配布資料	<p>【資料1-1】事後評価説明資料(千提寺地区)</p> <p>【資料1-2】社会資本総合整備計画「千提寺地区都市再生整備計画」</p> <p>【資料1-3】事後評価方法書(千提寺地区)</p> <p>【資料1-4】事後評価シート(原案)(千提寺地区)</p> <p>【資料1-5】事業実施状況写真(千提寺地区)</p> <p>【資料2-1】事後評価説明資料(JR 茨木駅南地区)</p> <p>【資料2-2】社会資本総合整備計画「JR 茨木駅南地区における大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出」</p> <p>【資料2-3】事後評価方法書(JR 茨木駅南地区)</p> <p>【資料2-4】事後評価シート(原案)(JR 茨木駅南地区)</p> <p>【資料2-5】事業実施状況写真(JR 茨木駅南地区)</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
小西課長	【前回委員会欠席委員、出席者の紹介】
澤木委員長	事務局に本日の委員の出席状況の報告を求める。
小西課長	会議については、委員会規則第6第2項により委員の半数以上の出席がなければ会議を開くことができないが、本日は5名中4名の委員が出席されているので、会議は有効に成立している（後程、猪井委員の出席により5名中5名の委員が出席）。
澤木委員長	議事の1「千提寺地区都市再生整備計画」の事後評価について、事業担当課からの説明を求める。
谷本主査	<p>【(1)「千提寺地区都市再生整備計画」の事業評価について】</p> <p>○整備方針概要（資料1-1、2～6頁）</p> <p>千提寺地区都市再生整備計画は平成23年度から27年度までの5年間の計画で、新名神の整備にあわせて交流人口を増やすための取り組みにより「豊かな自然環境と貴重な歴史・文化資源を活かしたにぎわいある癒しの空間の創出」を目標に、散策等を通じて地区の魅力を感じてもらうための事業を計画に位置づけている。</p> <p>まちの課題を解消するため、「都市住民と地域住民の交流促進」という目標に向けて、交流拠点に係る整備、回遊性を高めるための整備を行い、「高速道路の整備インパクトを活用したまちづくり」という目標に向けて、交流拠点の活用策の検討により地域住民が自らの取り組みを考えたり、自然や歴史といった特色を活かした事業展開として、案内板の整備やキリシタン遺物史料館の機能充実を行っている。</p> <p>整備方針1の「交流拠点広場整備・回遊ネットワークの形成」を示す数値指標として、指標1「来訪者の満足度」、指標2「既存3施設への来訪者数」を設定し、整備方針2の「地域住民による交流拠点の活用方法の検討」を示す数値指標として、指標1「来訪者の満足度」、指標3「まちづくり活動への参加者」を設定した。</p> <p>○数値目標の達成状況と効果発現要因の整理（資料1-1、7～15頁）</p> <p>指標1の「来訪者の満足度」は、主要施設（忍頂寺スポーツ公園、キリシタン遺物史料館、里山センター）にアンケート調査票を設置し、アンケートを記入した場所以外で千提寺地区を訪れた（訪れる予定）と回答した割合を集計し、地区内を回遊した人は来訪により満足したものと推定した。従前値14.5%、目標値20%に対して評価値が25.9%で、見</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>込み値であるが数値目標を達成した。効果発現要因は、事業の実施前から地区に対する来訪者の期待度は大きく、今回の整備により回遊性が高まったことから、来訪者の満足度につながったと言える。事後評価シートについても、この表現で修正を行いたい。</p> <p>指標2の「既存3施設への来訪者数」は、主要施設への1年間の来訪者数を集計し、従前値38,709人、目標値42,000人に対して評価値が50,207人で、見込み値であるが数値目標を達成した。効果発現要因は、自然や歴史に触れることができる施設等の整備より相乗効果が発揮され、既存3施設への来訪者数の増加につながったと整理した。</p> <p>指標3の「まちづくり活動への参加者」は、地区で開催するまちづくり活動への1年間の参加者延べ人数を集計し、従前値148人、目標値160人に対して評価値が194人で、見込み値であるが数値目標を達成した。効果発現要因は、イベントの開催や回遊路の整備など地域住民がまちづくり活動を行う機運が醸成され、まちづくり活動への参加者数の増加につながったと整理した。</p> <p>以上は数値で現れた成果の評価であるが、数値では現れない定性的な効果発現状況として、以下の3点を挙げる。</p> <p>1つ目は、都市部の住民により地域の魅力を知ってもらうイベントとして、「千提寺さと巡り」が開催された。</p> <p>2つ目は、案内板のイラストを地域住民自らがデザインし、回遊路や展望台の整備にあたっては、地域住民の協力、ボランティア団体の協力を得て伐採、除草等を行った。</p> <p>3つ目は、遠方までハイキングに赴かずに市内の回遊路を散策することができ、高齢者を中心とした健康づくりや生きがいづくりにつながった。なお、3つ目については事後評価シートへの記載がないため、この内容を追加したい。</p> <p>○実施過程の評価</p> <p>事業実施による評価だけでなく、結果に至るまでの実施過程として「持続的なまちづくり体制の構築」について評価を実施した。千提寺地区の住民により開催される千提寺まちづくり委員会は事業実施前の開催頻度は不定期で、行政が実施するまちづくりに対する意見交換が中心であったが、事業完了時においては、毎月1回定期的に委員会を開催し、内容についても住民自らが実施するイベント等の実施内容の検討や市と協働して実施する回遊路整備についての検討を行う場にシフトした。まちづくり委員会の開催内容の変化が今回の効果発現に寄与していると考えられ、この体制を維持していくことがまちづくりのポイントにな</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>ることから、今後も地区住民の主体的なまちづくり活動を検討するための場となるよう、市はオブザーバーとして参加することとしている。</p> <p>○今後のまちづくり方策（資料1-1、16～18頁）</p> <p>まちの課題の変化について、千提寺地区都市再生整備計画で記載した課題へ対応状況として、以下の5点を挙げる。</p> <p>1つ目の「生活環境や営農環境への影響」については、新名神高速道路の整備とあわせて代替地移転や農地の機能復旧は一定の対応が進んでいるが、高速道路以外の生活道路に関する機能維持や、大雨の際に土混じりの水が流出するなど治水対策は不十分な状況である。</p> <p>2つ目の「人口減少、高齢化の進行」については、事業実施前と事業完了後で比較すると、5年間で人口減少、高齢化は更に進行している。</p> <p>3つ目の「地域資源の活用による持続可能な地域づくり」については、遺跡広場、回遊路、遊歩道の整備やキリシタン遺物史料館の機能充実により、来訪者にとって魅力的な交流の基盤が創出されたと言える。</p> <p>4つ目の「新名神高速道路のインパクトに対応した交通基盤の整備」については、インターチェンジへのアクセス道路が未整備である。</p> <p>5つ目の「まちづくりに向けた素地づくり」については、地域住民によるまちづくりの機運が高まり、住民主体によるイベントが定期的で開催される状況になっている。</p> <p>まちの課題の変化を踏まえた今後のまちづくり方策として、以下の4点を挙げる。</p> <p>1つ目は「持続可能な地域づくりの継続」で、千提寺菱ヶ谷遺跡については詳細の確認調査を当面は継続しながら、将来は国の史跡指定を目指すとともに、キリシタン遺物史料館の更なる充実を図る観点から、新たな史料館の建設も視野に入れた検討を進めていく。また、今回の事業で整備した回遊路、遊歩道、展望台については地域住民やボランティア団体と連携しながら草刈り等の維持管理を行っていくとともに、ネクスコ西日本と調整しながら新たに展望デッキの整備を行っていく。市道千提寺2号線は千提寺菱ヶ谷遺跡と現在のキリシタン遺物史料館をつなぐ道路で、回遊路としての位置づけももたせており、人が散策する道、生活道路としての安全性の向上の検討を進めていく。今回、新たに施設等の整備が行われており、既存の地域資源とともに地区の魅力のPRなどの情報を発信していく。</p> <p>2つ目は「新名神高速道路の供用に伴う通過交通対策」で、市街地からのアクセス道路は大阪府による事業が進められているが、北部地域（高速道路の西側の地域）からのアクセス道路がなく、交通の円滑化を</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
澤木委員長	<p>図る観点から、市道泉原千提寺線の整備を進めていく。</p> <p>3つ目は「北部地域全体（山三地区）を対象としたまちづくりの検討」で、山三地区というのは本市北部地域の旧の3つの村である、見山村、清溪村、石河村を総称したもので、千提寺地区と同様に自然や農村風景が広がるなか、人口減少や高齢化の進展といった北部地域共通の課題がある。こういった状況のなか、農林水産省の農村集落活性化支援事業の補助が採択されたことを契機として、千提寺地区の住民の声掛けにより山三地区の住民や出身者、事業者で構成される茨木市北部地域協議会が昨年4月に設立され、現在は山三地区の存続に向けて北部地域の将来ビジョンと具体的な展開方法を考えるためのワークショップが進められており、まちづくりの輪が千提寺地区から北部地域全体に広がりが出てきつつある。</p> <p>4つ目は「地域の維持に向けた地域住民による取り組み」で、先ほど3つ目のところでご説明した北部地域協議会（「茨木ほくちの会」は愛称）には市も参加しており、山三地区の将来ビジョンを踏まえ、市の支援を検討していく。</p> <p>○フォローアップ計画（資料1-1、19～20頁） フォローアップの対象となる指標については、3つの指標を全て「見込み」で評価したため、全ての指標に対してフォローアップを実施するが、実施時期については新名神高速道路の供用後の効果を把握するため、供用予定の平成28年度末から一定の期間を置いて、平成29年10月頃を予定している。 計測方法については「来訪者の満足度」「既存3施設への来訪者数」「まちづくり活動への参加者数」ともに従前値や評価値と同様の方法で計測する。</p> <p>○パブリックコメントの実施について（資料1-1、21～22頁） 意見等募集期間は、平成27年11月4日から12月3日であり、意見提出はなかった。</p> <p>○今後のスケジュール（資料1-1、23～24頁） 評価結果の公表等に向けたスケジュールは、本日の審議内容を踏まえ、事後評価結果として事後評価報告書を公表する。</p> <p>事業担当課からの説明について、各委員に意見を求める。主な審議項目は、「成果の評価」、「効果発現要因」、「今後のまちづくり方策」である。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
式委員	資料1-1の10頁の指標2について、里山センターの来訪者数は従前値では2,517人で、評価値では7,391人と大幅に増加しているが、千提寺地区での整備による効果だけが要因であるのか。
谷本主査	利用者が増加した要因は様々であり、散策された方が休憩に利用したことも考えられるが、里山センターでのイベントも実施されており、それによる利用者数の増加が大きい。
延原委員	資料1-1の9頁の指標1について、回遊性が高まったことから満足度の向上につながったと整理しているが、アンケート調査において回遊性が高まったことがわかった根拠についての補足説明を求める。
谷本主査	アンケート調査の設問において「記入された施設以外に立ち寄られる（立ち寄られた）場所はありますか。」という問いに対して、「はい」と答え方には具体の場所を記載してもらっており、その中で千提寺地区の施設等を訪れた人の割合を指標として集計し、回遊性が高まったと整理した。
澤木委員長	定性的な効果発現状況について、資料1-1では3点記載しているが、資料1-4では2項目の記載であり、追加項目の3点目として、高齢者による回遊路の散策を記載しているが、高齢者の散策が多いことを一定の根拠として把握しているのか。
谷本主査	統計データとしての把握はできていないが、事実としては高齢者が散策する様子を見かけることが多い。
式委員	忍頂寺スポーツ公園が来訪者の数としては最も多いが、今回のアンケートでは主に施設を訪れることを目的として回答されたケースが多かったのか、それとも散策する方が回答されたケースが多かったのか。
谷本主査	回答者が多かったのはキリシタン遺物史料館で、回答者が最も少なかったのは忍頂寺スポーツ公園となっている。忍頂寺スポーツ公園に関してはテニスコート等の運動施設があり、回答された方は施設そのものを楽しむことを目的としていると思われる。
上田次長	資料でもご説明したが、今回の評価は見込み値で計測しており、回遊性を高める散策路等の整備が進むとハイキング等で利用される方も多くなると考えている。 定性的な効果発現状況の3つ目の追加に関しては、福祉部局などソフト部

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	門も交えた庁内調整会議の中で間接的な効果として意見があったものであり、資料1-4の事後評価シートにおいて追加したい。
木村委員	高齢者の散策が多いことに関しては観光協会で実施している観光ウォークでの実績もあると思うので、数値的な根拠を整理しておくほうがよい。
上田次長	フォローアップの際には、どういった目的で来訪されたかや年齢構成などの属性をアンケート項目に追加して把握を行いたい。高齢者の散策が多いことについては観光協会へのヒアリングなどを通じて確認する。
式委員	都市住民と地域住民の交流促進という目標について、「千提寺さと巡り」というイベントの実施による効果が大きいと考えられるが、イベントには何人参加されているのか。また、資料1-1の13頁について、指標3のまちづくり活動への参加者には都市部住民の参加者は入っているのか。
谷本主査	指標3については地元住民の参加者数を集計しており、都市部住民の参加者は含まれていない。「千提寺さと巡り」の実施の際は人数を25人程度に限定し、地域住民によるガイドによりキリタン遺物史料館への案内や周辺の散策のほか、山菜摘み体験、干し柿づくり体験などのきめ細やかなおもてなしを意識したイベントによる交流促進に取り組んでいる。
澤木委員長	資料1-1の20頁のフォローアップについて平成29年10月に実施することとしているが、時期を遅らせることによる影響等はないか。
谷本主査	新名神高速道路が開通した後の効果を測定したいと考えており、8月であれば夏休み期間中でもあり来訪者も多いと思われるので、新名神高速道路の開通から半年が経過した10月にフォローアップを行うこととしている。
澤木委員長	資料1-1の14頁の定性的な効果発現状況について、「千提寺さと巡り」の記載について交流の中身がもう少しわかるように補足したほうがよい。 ほか、資料1-1の9頁の指標1の総合所見にあわせて資料1-4の事後評価シート（原案）についての修正と、14頁の定性的な効果発現状況について、3つ目の高齢者の散策につながった旨の記載についての追加を事務局で行ったうえで事後評価シートを公表することで異議はないか。
	【異議なし】
澤木委員長	以上、本日の意見等を踏まえ、事業担当課には、事後評価報告書の作成を

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
澤木委員長	<p>お願いする。</p> <p>議事の2「JR 茨木駅南地区における大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出」の事後評価について、事業担当課からの説明を求める。</p>
谷田主幹	<p>【(2)「JR 茨木駅南地区における大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出」の事業評価について】</p> <p>○整備方針概要（資料2-1、2～6頁）</p> <p>JR茨木駅南地区は、「JR茨木駅」「大阪モノレール宇野辺駅」及び「阪急南茨木駅」の3駅を含む中心市街地であり、各種の道路整備やJR茨木駅駅前広場の整備、地域交流センターの整備などを実施している。</p> <p>事業実施にあたり、「大規模工場跡地の土地利用転換を契機とした、都市基盤施設の整備と交流・学習拠点の創出」という大目標を掲げ、大目標を達成するために、「歩行者・自転車ネットワークの充実」「地域の防災性の向上」「交流と学習のまちづくり拠点の整備」という1～3の3つの目標を設定した。</p> <p>目標1の「歩行者・自転車ネットワークの充実」を示す数値指標として、指標1「茨木市全域の交通利便性の満足度」を設定した。</p> <p>また、事業効果を評価する補足指標としてその他の数値指標1「都市再生整備計画事業の満足度」を追加で設定した。</p> <p>目標2の「地域の防災性の向上」を示す数値指標として、指標2「避難圏域内の一人あたりの有効避難地面積」を設定した。</p> <p>目標3の「交流と学習のまちづくり拠点の整備」を示す数値指標として、指標3「産官学民交流センターの利用者」を設定した。</p> <p>○数値目標の達成状況と効果発現要因の整理（資料2-1、7～23頁）</p> <p>指標1の「茨木市全域の交通利便性の満足度」は、市民2,000人を対象にアンケート調査を実施し、6個の設問により満足度を設定した。</p> <p>従前値10.8%、目標値13.1%に対して評価値が9.7%で、数値目標は未達成となった。</p> <p>参考で本地区のみのアンケート調査では、目標1「歩行者・自転車ネットワークの充実」関連の満足度は、満足が不満を大きく上回る結果となったことから、参考値であるが、交通利便性の向上で一定の満足度が得られたと考えている。</p> <p>効果発現要因は、満足度は10.8%に対して9.7%と下回ったが、茨木市全域の交通利便性を問うアンケート調査であったため、未達成には、</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>対象地区外の道路整備の取り組みが影響していると考えている。また、地区内についての交通ネットワークの満足度は満足が不満足を大きく上回っており対象地区における利便性は向上していると考えている。事後評価シートについても、この表現で修正を行いたい。</p> <p>指標2の「地域の防災機能の向上」は、避難圏域内の一人あたりの防災公園の有効避難面積を設定した。目標値は防災公園・設計ガイドラインで定められた一人あたり有効避難面積を2.0㎡と設定し、評価値は一人あたり2.08㎡で目標は達成した。</p> <p>今回の整備はJR茨木駅南側のJR東海道線及び大阪中央環状線に囲まれた避難困難区域約53.8haを解消すべく区域設定をした。</p> <p>参考で本地区のみのアンケート調査では、防災機能の充実に関する満足度は45.7%となっており一定の満足度が得られたと考えている。</p> <p>効果発現要因は、防災公園を整備したことで、一人あたり有効避難面積が確保され約53.8ha、7,199人の避難困難区域が解消された。また、避難路となる隣接した道路や、そこに至る各道路整備・改良を実施した結果、地域の防災機能も向上したと考えている。</p> <p>指標3の「産官学民交流センターの利用者」は、交流センターの利用者数を設定した。目標値は、立命館大学びわこ草津キャンパスの類似施設からの推計で、3,000人と設定し、評価値は見込値で4月から9月までの利用者数を測定した結果6,538人で、目標は達成した。</p> <p>参考で、本地区のみのアンケート調査では、産官学の交流機会の創出を図る拠点づくりによる地域活性化の満足度は42.1%となっており一定の満足度が得られたと考えている。</p> <p>効果発現要因は、イベントホール等における産官学民が連携した活動・イベント等の実施や図書館における近隣住民等の日常的利用により、利用者数が目標値を大きく上回り、地域交流拠点としての機能を担っていると考えている。</p> <p>その他の数値指標1「対象地区における都市再生整備計画事業の満足度」は、指標1のアンケート調査と併せて実施した対象地区の事業全体の満足度を設定した。目標値は半数以上の方の満足度が得られるとの想定で50%と設定し、評価値は50.1%で目標は達成した。</p> <p>参考で、対象地区の養精中学校区での満足度を抽出すると、77.7%となり、対象地区内の住民からは、より高い満足度が得られていると考えている。</p> <p>効果発現要因は、各道路の整備やバリアフリー化の促進、交通安全性</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>の向上が図られ、交流センターや防災公園の整備を実施した事で、50%以上の満足度が得られたと考えている。</p> <p>以上は数値で現れた成果の評価であるが、数値では現れない定性的な効果発現状況として、以下の3点を挙げる。</p> <p>1つ目は、JR 茨木駅東口駅前広場の整備で、人が集まる空間が形成された結果、様々なイベントの開催など地域の賑わいが創出された。</p> <p>2つ目は、防災公園の整備では、防災設備の案内板設置により、平常時でも防災設備を確認でき、利用者の防災意識の向上につながっていることや、幅広い世代の利用者が多く集い、地域における交流拠点の役割を担っている。</p> <p>3つ目は、地域交流センターの整備では、センター内に商工会議所が移動したことで、以前にも増して、産官学が連携した多様な取り組みが、数多く実施されている。</p> <p>○実施過程の評価</p> <p>事業実施による評価だけでなく、結果に至るまでの実施過程として「住民参加プロセスの実施状況」についても評価を実施した。茨木市総合交通戦略協議会の各部会や、茨木市自転車利用環境整備計画協議会、茨木市バリアフリー基本構想協議会など、市民委員の参加により、中心市街地の公共交通利便性向上等バリアフリー化に向け、様々な意見収集を行っている。今後もバリアフリー化等について意見収集を予定している。</p> <p>○今後のまちづくり方策（資料2-1、24～26頁）</p> <p>まちの課題は、各種ハード整備の実施で一定解消できたと考えている。しかし、ソフト面では自転車歩行者道等における交通ルールの周知が図れていない側面もあり、残された未解決の課題にあげている。</p> <p>まちの課題の変化を踏まえた今後のまちづくり方策として、効果の持続を図る事項を2点、改善する事項を1点挙げる。</p> <p>効果の持続を図る事項の1つ目は、防災機能の向上では、防災意識を高めるべく、大学キャンパスと一体となって防災イベントを実施する等、防災知識の向上や周知を図っていく。</p> <p>2つ目は、バリアフリー化のさらなる推進では、今後も引き続き周辺道路や駅前広場などのさらなるバリアフリー化の推進が必要と考えている。</p> <p>改善する事項では、未解決の課題である交通ルールの周知・徹底をあ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>げている。交通安全教室等は、これまでも実施しているが、整備した歩行者・自転車ネットワークを快適で安全なものにするためにも、引き続き、交通安全教育や街頭啓発などの安全教育を推進する必要があると考えている。</p> <p>○フォローアップ計画（資料2-1、27～28頁） フォローアップの対象となる指標については、指標3の「産官学民交流センターの利用者数」を「見込み値」で評価したため、年間の利用者数が算出できる4月以降にフォローアップの実施を予定している。</p> <p>○パブリックコメントの実施について（資料2-1、29～30頁） 意見等募集期間は、平成27年11月4日から12月3日であり、意見提出はなかった。</p> <p>○今後のスケジュール（資料2-1、31～32頁） 評価結果の公表等に向けたスケジュールは、本日の審議内容を踏まえ、事後評価結果として事後評価報告書を公表する。</p>
澤木委員長	事業担当課からの説明について、各委員に意見を求める。主な審議項目は、「成果の評価」、「効果発現要因」、「今後のまちづくり方策」である。
澤木委員長	茨木松ヶ本線の整備は現時点では未完了であるが、「効果発現要因の整理」の改善への貢献度の指標1は「目標未達成の間接的な原因」、指標2は「直接的に貢献」、指標3は「間接的に貢献」となっている。これは、駅等から公園や産官学民交流センターへのアクセス部分については整備が完了しているからと考えてよいか。
藤田課長	JRを東西に横断する通過交通だけが遮断している状態なので、公園や交流センターまでは整備した道路を通行できるので、アクセス部分については整備が完了している。
澤木委員長	指標3の改善への貢献度の中で、下水道の整備が「直接貢献している」となっているが、どのような観点から評価したのか。
藤田課長	下水道の整備は、都市再生整備計画において掲げられた事業の一つであり、また、産官学民交流センターの供用を行うための必須条件であることから、「直接的に貢献」とした。

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
猪井委員	<p>資料 2-1 の 25 頁の「残された未解決の課題」として、“交通ルールの周知が図れていない”ということが書かれているが、ルールの周知だけでなく、マナーの周知も必要ではないか。</p> <p>交通安全対策の方法として一般的に 3E ということが言われている。1 つ目は Engineering (ものづくり)、2 つ目は Enforcement (規制)、3 つ目は Education (教育) である。交通安全対策は必ずしも教育だけで解決する必要はなく、交差点部分をもう少し改良したり、交通指導員に立ってもらい指導を行うといったことも考えられる。既に、立命館大学が交通指導員を置いて、交差点部分で交通整備を行っているという話も聞いている。</p>
藤田課長	<p>「残された未解決の課題」については、ルールだけでなくマナーの周知に関する記載も追加する。</p> <p>大学側で指導員を置いているということは市でも確認しているので、その点については事後評価シートにも記載する。</p>
延原委員	<p>資料 2-1 の 22 頁の「定性的な効果発現状況」において、防災設備の案内板を設置したことで利用者の防災意識が向上しているということが書かれているが、事後評価シートには反映されていない。</p>
藤田課長	<p>今回提示の事後評価シートは原案のままとなっているが、資料 2-1 の内容については事後評価シートにも反映させる。</p>
澤木委員長	<p>案内板の設置が防災意識の向上に繋がっているということは、実際に確認できているのか。</p>
藤田課長	<p>防災公園を利用している市民が立ち止まって案内板を読んでいる姿を市でも確認している。</p>
澤木委員長	<p>防災訓練などでの住民の意見や反応から、防災意識の向上を実感するようなことはないか。</p>
大塚副市長	<p>施設開設間近のイベントを実施したときに、防災をテーマとした取り組みを実施しており、また、来年度も公園を利用して防災に関するイベントの実施を予定している。</p>
式委員	<p>資料 2-1 の 11 頁に“地区内については交通ネットワークの満足度等は…”と書かれているが、交通ネットワークの現状の満足度ではなく交通ネットワ</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
	<p>ークの新たな整備に関する満足度を聞いたものであると考える。</p>
藤田課長	<p>“地区内については交通ネットワークの整備に関する満足度等は…”と修正する。</p>
澤木委員長	<p>「持続的なまちづくり体制の構築」や「モニタリング」については何か書くことはないか。</p>
猪井委員	<p>バリアフリーについては総合学習を実施してくという話を聞いており、また、交通戦略についても策定作業が完了し、今後は見直しなどを進めていくということも聞いている。これらのことを「持続的なまちづくり体制の構築」に書いてもよいのではないか。</p> <p>「モニタリング」に関しても、バリアフリーについて利用実態について意見把握などを行っているとのことなので、そのような内容を書いてもよいのではないか。</p>
藤田課長	<p>バリアフリー基本構想や自転車利用環境整備計画については5年に1度の計画見直しを実施しているので、これらの内容を「持続的なまちづくり体制の構築」にあげられるかどうか検討する。</p>
澤木委員長	<p>産官学民交流センターを通じて、住民や大学との連携体制の構築などは行われていないのか。</p>
大塚副市長	<p>連携協定は結んでいるが、連携組織の構築までには至っていない。</p>
澤木委員長	<p>以上、本日の意見等を踏まえ、事業担当課には、事後評価報告書の作成をお願いします。</p>
澤木委員長	<p>最後に委員のみなさんへお聞きするが、前回の会議による下水道に関する2件の計画と、本日の会議によるまちづくりに関する2件の計画について、それぞれ一部のご指摘はあったが、いずれも事後評価の手続きはおおむね適正に進められており、今後のまちづくり方策は事業の実施を踏まえたものとなっていることを当委員会として確認したい。</p> <p style="text-align: center;">【異議なし】</p>
澤木委員長	<p>それでは、本日の議事は終了とし、事務局へお返すする。</p>

議 事 の 経 過

発言者	議 題 (案 件) ・ 発 言 内 容 ・ 決 定 事 項
小西課長	平成 27 年度の建設事業評価委員会における案件の審議は終了した。当委員会の閉会にあたり、大塚副市長からあいさつを申し上げる。
大塚副市長	【あいさつ】
澤木委員長	それでは、本日の会議はこれをもって終了とする。長時間にわたりご協力をいただき、お礼を申し上げる。 以上